

いよび

No. 75

特集
Special Section

スーパーグローバル大学として
世界で活躍でききる

『実践人』の育成へ

国際化に向けた大学改革の加速と強化

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
小玉 健さん 岡山県産業労働部観光課 副参事
- 研究室訪問 仁科 勇太 異分野融合先端研究コア・准教授
- きらり岡大生 澤 晃太郎 グローバル人材育成特別コース (工学部機械システム系学科2年)
- 資源植物科学研究所 100周年 記念式典開催
- まちづくりの拠点に「西川アゴラ」開所
- ESD 特集 / 岡山大学が取り組む ESD
- News & Topics 大学の動き / 研究・臨床成果
- 新たな憩いの場「Jテラス」誕生
- 卒業生らと交流深めるホームカミングデイ開催



新たな憩いの場「Jテラス」

スーパーグローバル大学として 世界で活躍できる 『実践人』の育成へ

特集
Special Section

—国際化に向けた大学改革の加速と強化—

岡山大学は今年9月、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援対象機関に採択された。地域の国際化などを先導する役割も期待される中、「PRIMEプログラム～世界で活躍できる『実践人』を育成する!～」として、学生が教養力・語学力・専門力の3基幹力を修得し、異分野・異社会・異文化の3側面における経験を持てる教育を全学体制で推進。教育、研究、組織のすべての面にわたって総合的な大学改革を図り、世界トップステージで活躍できる人材の育成に取り組む。スーパーグローバル大学構想をいかに着実に実現していくか。キーパーソンとなる各理事に意気込みや今後の展望について聞いた。



教育担当

許 南浩理事
Executive Director ● Education

原点から未来へ！
しっかりと学び、学ばせ、学びあろう



社会が最終的に必要としている人間像は昔も今も基本的に変わらないが、今は大学卒業時点で即戦力となる人材が求められている。大学はこうした社会のニーズに対応しなければならぬ。実践の現場で適切な判断をくだすことができる

「実践人」たる学生を育てるには、学生自身が地域や企業、国際社会など幅広い現場に接する機会を多く持つことが重要。スーパーグローバル大学に採択されたから特段に新しい取り組みをするというよりも、これまでの教育の原点に立ち戻ることだととらえている。

大学は学び合う人たちが集まる場であり、学びの主語は学生だけではなく、教員も含まれる。2016年度から全学部で60分授業とクォーター制を導入し、学生にとっては授業時間が1.3倍になるなど集中してしっかりと学べる環境が整う。一方で教員にとっては既存科目の授

業内容や教授方法を徹底して見直す必要がある。いかに学生の知的好奇心を喚起し、自ら学ぶ意欲を持たせるか。学生に教員がどう向き合うかが鍵となるだろう。

入試制度改革も大きな課題。岡山大学が先進的に取り組んできた国際バカロレア入試は、思考のプロセスや発想の重視、多面的で総合的な能力を測る入学者選抜の考え方を牽引するものと思われている。2017年度には既存のマッチングプログラムコースに留学生枠を加えたグローバルマッチングプログラムコースを新設し、将来的な新学部等への発展も視野に入りたい。総合的な英語能力を測るために、外部検定試験も活用したい。今の時代をどう認識し、大学教育を展開していくか。固定観念にとらわれず、柔軟な発想を取り入れてスピード感ある教育改革を進めたい。

社会貢献 国際担当

Executive Director ●
Social Responsibility and International Affairs
荒木 勝理事

地域に深く根差し
世界の学生が集うキャンパスの創成



大学の国際化のためには留学生・外国人研究者の受け入れや派遣を増やすことが重要。そのためには組織体制や制度的保証の整備が必要になる。留学生受け入れのための教育機関として、国際センターを改組してグローバル・パートナーズを設置した。大学院に進学する留学生の予備教育を行う大学院予備教育特別コース（プレマスター）も開設した。また、国際交流事業の企画・運営部門としてグローバル・リーチを新設し、リクルーティンクなど留学生獲得に向けた活動も強化していきたいと考えている。留学生受け入れの宿舎・奨学金の拡充にも取り組む。

グローバル・パートナーズ内に新設したりエゴン・オフィスと協力して学生の海外派遣と留学生の受け入れに積極的に取り組んでもらいたい。

グローバル実践知を修得する教育プログラムの展開をサポートするために、教育開発センターや地域総合研究センターとの連携は必須。学部段階から留学生を受け入れるグローバルマッチングプログラムコースの取り組みも、アドミッシヨセンターとの協働抜きに充実は図れない。さらに海外で活躍している卒業生が4000人近くおり、大学関係の仕事に携わっている卒業生も多く、留学生の誘致も期待できる。国際同窓会支部や海外事務所を拡大し、岡山大学のエージェンシーとしての役割を果たす国際連携所を増設しながら、海外拠点の拡充にも力を入れたい。

財務・施設担当

Executive Director ● Finance and Facilities
門岡 裕一 理事



世界が認める 教育研究環境の実現を目指す

留学生の受け入れを増やし、彼らに安心して大学生活を送ってもらうには宿舍を確保しなければならない。現在、留学生と日本人学生混住型の国際シェアハウスの建設を計画中で、来年度には着工し、2016年度からは入居を開始する予定だ。生活面だけでなく、教育環境という観点では「Lodge（エル・カフェ）」や附属図書館内のラーニング commons のような留学生と日本人学生が交流できる居心地のよい空間を増やしていきたい。

ただ、教育環境は岡山大学の中だけではないと考えている。岡山市中心部・西

川緑道公園一帯の魅力アップを念頭に学生や市民らが協働でまちづくりを進めるための学外拠点「西川アゴラ」を開設した。実践型社会連携教育を進めるうえでこうしたフィールドを広げていくことは大切であり、行政や地域、企業、他大学などの連携は欠かせない。

一方で、環境整備には財源も必要。岡山大学の社会への貢献度を目に見える形にし、国や民間企業からの協力も得ながら、これからの日本の大学の先導的モデルとなるような大学を目指したい。

研究担当

山本 進一 理事
Executive Director ● Research



最先端異分野融合研究で輝く スーパーグローバル研究大学へ

岡山大学は昨年、文部科学省の研究大学強化促進事業の支援対象機関に採択された。最先端の研究をグローバルに展開し、岡山大学の研究レベルを世界のトップレベルに引き上げていくことを最大の目的として、グローバル最先端異分野融合研究機構を中心にイノベーションを引き起こす組織づくりを進めている。今後は「スーパーグローバル研究大学」として、人文学、社会科学、自然科学、医歯薬学にわたるさまざまな分野の研究と総合力を世界レベルに上げていくことが求められる。さらに、岡山大学のレピュテーションやビジビリティ向上によりいっそう努めなければならないだろう。

岡山大学は研究大学強化促進事業に

加え、文部科学省の橋渡し研究加速ネットワークプログラムの特典や、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業に採択されており、研究の推進体制が整ったと言える。岡山大学の強みを生かした異分野融合研究をさらに促進するためには医療工学分野の強化が欠かせない。来年度には自然科学研究科に生命医用工学専攻を、2018年度には全学体制で国際医療生体工学研究科を設置する予定で、新たな学部の上りも視野に入れている。世界レベルの水準にある研究力で岡山大学の名前を高め、国際化の進んでいる研究領域を牽引力としてほかの領域の国際化、底上げを図りたい。

企画・総務担当

阿部 宏史 理事
Executive Director ● Planning and General Affairs



ガバナンス体制の刷新と 継続的組織改革による持続的発展

教員の人事制度改革と教職員の国際化が大きなテーマ。人事制度改革の柱として導入する教員の年俸制により、教員・研究者の活動が活性化し、優れた民間研究者や外国人教員も招致しやすくなり、大学全体として研究・教育の質の向上につながるだろう。異分野融合先端研究コアを起点としてテニユアトラック制を未導入部局に拡大するとともに、若手女性研究者の確保・育成を目指したウーマン・テニユア・トラック制の推進によって女性教員比率を拡大していきたい。また、執行部における女性の割合を高め、大学運営により多様な視点を取り入れることも必要であろう。

教職員の国際化に向けては、外国人教職員や海外経験を有する日本人教職員比率を高め、海外経験などの国際通用性に関する評価項目のウエイトも上げていく。また、職員には外国語能力アップに向け

て海外研修などを実施していく。職員の能力開発は国際交流協定校などとの情報交換や交渉に必須。留学生が増えた際に留学生と日常的に接するのは職員であり、語学力を高めなければ職務を全うできない状態になりかねない。

昨年、文部科学省が公表した国立大学改革プランでは学長のリーダーシップも重視される。学長以下、執行部、各部署の方向性がばらばらでは改革は進まないわけで、執行部と部局間の連携の向上に向けて第三者評価によるチェック体制の充実も重要。また、今の時代に対応した改革推進には専門的なスキルを持った人材も必要で、外部から積極的に雇用する予定だ。教職員の意識を変えるためには、今ある環境を変え、改革の必要性を感じさせることが重要だと考えている。国際化に向けた組織改革を10年間で段階的に、着実に進めていきたい。

TOPICS

岡山大学「PRIMEプログラム」 ～世界で活躍できる『実践人』を育成する!～ キックオフシンポジウムを開催



谷口理事より岡山大学の事業構想の紹介



文部科学省顧問・木村氏



今後への意気込みを語る森田学長



パネルディスカッションで発言する岡山県知事・伊原木氏



一般社団法人岡山経済同友会代表幹事・松田氏

11月24日、ホテルグランヴィア岡山にて、キックオフシンポジウムを開催しました。文部科学省顧問・木村孟氏より「今、何故、スーパーグローバル大学か」と題して基調講演、続いて岡山県知事・伊原木隆太氏、一般財団法人岡山経済同友会代表幹事・松田久氏より、グローバル人材を岡山でどのように育成するか、岡山大学に期待することなどについて講演がありました。谷口秀夫理事（大学改革担当）より事業構想の紹介後、パネルディスカッションでは、森田潔学長、木村氏、伊原木氏、松田氏らが「グローバルな『実践人』を育てるために」をテーマとして意見交換を行いました。

会場には地域の方々、企業関係者、高等学校や大学関係者、本学教職員ら約200人が参加し、登壇者の発表に熱心に耳を傾けていました。



岡山県産業労働部観光課 副参事 ◆ 岡山大学法学部卒・法学研究科修士課程修了

小玉 健

K O D A M A T a k e s h i

岡山県庁に入庁して以来、
主に国際関係の業務に携わってきた。
現在は、外国人観光客誘致を担当。
岡山を海外に売り込もうと奮闘する。

- ▶ こだま たけし (45歳)
- 昭和43年 岡山市生まれ
- 昭和62年 岡山大学法学部入学
- 平成3年 岡山大学大学院法学研究科入学
- 平成6年 岡山県庁入庁
- 平成10年 知事室 公聴広報課
- 平成14年 自治体国際化協会 (CLAIR) 東京本部
- 平成15年 自治体国際化協会 (CLAIR) シドニー事務所
- 平成17年 企画振興部 国際課
- 平成20年 産業労働部 産業企画課 (経済国際化推進班)
- 平成22年 美作県民局 税務部 収税課
- 平成24年 総務部 税務課 (特別徴収班)
- 平成26年 産業労働部 観光課 (海外誘客班)



シドニー事務所時代▶

先導的な取り組みをし
ている同国の視察を希望する自
治体をサポートしたり、岡山県と
姉妹提携を結ぶ南オーストラリア
州に、県関係者が訪れた際にガイ
ドするなどしました。海外での出
会いや経験が、今の自分の糧にな
りました。

ある同国ですが、実は砂
漠が広く、緑があるの
は沿岸部に限られて
います。貴重な自然
を後世に残すため
ごみの削減、エコ
ツーリズムなど、環
境保全に力を入れて
います。

本部 (東京) での勤務を経て
2003年から2年間、オースト
リアのシドニー事務所にいまし
た。自然豊かなイメージの

糧になった海外勤務
学生時代、法律を学んでいた私
が、県庁で「国際畑」を歩むよう
になったのは、一般財団法人「自
治体国際化協会」(CLAIR)
への出向が大きなきっかけになっ
たと思います。

視察で県に訪れた海外の旅行
業者、観光担当者らの案内も行っ
ているのですが、思いがけない反
応が返ってくる場合があります。
先日、チュニジアの国家観光局

郷土の魅力を見
観光で県に訪れた海外の旅行
業者、観光担当者らの案内も行っ
ているのですが、思いがけない反
応が返ってくる場合があります。
先日、チュニジアの国家観光局

観光で関心を持つポイントも、
各国で異なります。例えば、中国
東南アジアの方は、果物狩りが
好きなので、桃狩りができるこ
とをアピール。欧米の方は歴史
的なものを好む傾向があるので、
伝統工芸や祭りを紹介するなど、
それぞれに合った売り込みをし
ています。

「OKAYAMA」を海外に
出向以降は、国際課や産業企
画課経済国際化推進班など、海
外に携わるさまざまな業務をし
てきました。4月からは観光課
で、外国人観光客の誘致を担当
しています。

私の役割は「変圧器」になるこ
とだと考えています。電圧は日本
と海外で基準が異なるため、変圧
器がなければ故障してしまいます。
それと同じで、海外からのニーズ
に耳を傾けたり、逆に岡山の売り
を外国人に分かるように伝えるな
ど、双方を調整するのが、私の仕
事です。これからも岡山と海外を
円滑につなぐための一助になりた
いと思います。

の担当者から倉敷・美観地区の感
想を聞いたところ、「観光地なの
に、落ち着いた雰囲気は保たれて
いる」と驚いていました。他国の
観光地は大勢の観光客が集まると
どうしても雑然とした印象になる
とのことでした。「海外の目」を
通して、郷土の魅力を見直した
り、新たな発見ができるのが、こ
の仕事の醍醐味です。

の担当者から倉敷・美観地区の感
想を聞いたところ、「観光地なの
に、落ち着いた雰囲気は保たれて
いる」と驚いていました。他国の
観光地は大勢の観光客が集まると
どうしても雑然とした印象になる
とのことでした。「海外の目」を
通して、郷土の魅力を見直した
り、新たな発見ができるのが、こ
の仕事の醍醐味です。



チュニジア国家観光局の担当者に説明する小玉さん▲

岡山と海外 つなぐ一助に



■岡山県庁
所在地：岡山市北区内山下2丁目4番6号
事業内容：産業、観光、文化など、岡山県の
各種施策の企画・許可事務ほか
職員数：24,862人 (平成26年4月1日現在)

「高度な知の創成と的確な知の継承」。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

研究室訪問

NISHINA YUTA (30歳)
 ▶1984年 岡山県笠岡市生まれ
 ▶2008年 日本学術振興会 特別研究員(DC2)
 ▶2008年 マサチューセッツ工科大学 Visiting Scientist
 ▶2008年 神戸大学大学院理学研究科 特別研究生
 ▶2010年 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了
 ▶2010年 岡山大学異分野融合先端研究コア 助教(特任)
 ▶2014年 岡山大学異分野融合先端研究コア 准教授

社会に役立つ研究を目指し、未知の分野に挑戦

さまざまな分野の若手研究者が集う「異分野融合先端研究コア」(津島キャンパス)。その一員である仁科准教授は、新素材の可能性を見いだした。新たなイノベーション創出へ向け、研究は加速する。



酸化グラフェン▶
 炭素原子と酸素原子を主として含む2次元シート状の材料。触媒、二次電池、透明導電膜、環境浄化材、潤滑剤などの幅広い用途への開拓が進められている。

ターニングポイント

客員教授として訪ねたシンガポール・南洋理工大学の研究室。無造作に置かれた瓶に入った「黒い液体」との出合いが、研究生を大きく変えるターニングポイントになった。

水や有機溶媒に溶解し、合成、反応が容易にできる。この液体が、無限の可能性を秘めていると直感した。約2カ月の滞在中、基礎知識、合成方法を習得するため研究に没頭。「学生に戻ったように、夢中になった」と、当時を振り返る。

液体の正体は、酸化グラフェン。2010年のノーベル物理学賞の研究材料としてグラフェンは有名となっていたが、当時の仁科准教授には、あまりなじみがなかった。

基礎から応用まで

優秀な若手研究者育成を目的とした「テニユアトラック」制で採用された。同制度は、既存の組織から独立した「異分野融合先端研究コア」で、独自の研究に専念できるが、期限付き採

用で、達成度を満たさなければ本採用に移行されない。4年の間に論文などで結果を残し、今年4月、29歳の若さで、准教授になった。

現在は、高価なグラフェン素材の大量生産技術を研究。同素材の特性を活かし、水溶液に分散させて潤滑剤にしたり、固体にして電池や触媒の材料にするなど、さまざまな用途への応用研究を進める。

異分野融合への歩み

化学に興味を持ったきっかけは、幼少時に見た「魔法の薬」だ。化学系の企業の技術職をしていた父親からもらった透明な液体。ほかの液体と混ぜると、鮮やかな赤色に変化した。原理はわからなかったものの、その時のわくわくした気持ちは、今でも覚えている。

「大好きだったシャボン玉を大きく膨らませるため、せっけん水に砂糖やシャンプーを入れたりもした」。知的好奇心が旺盛なのは、そのころからだ。

大学時代は他学科の教授の研究補助としてアルバイトをした。この経験が、「異分野を知ること、見識を深める」という自身の研究スタイルの礎になった。

「学科の勉強だけでは分からないことを教わり、視野が広がった」。第一人者である教授から直接指導を受けたことも、「貴重な経験だった」と言う。指導する立場になった今、研究室を訪れる学生と積極的に対話。培ってきた知識と経験を自分の言葉で伝えるように心掛けている。

可能性を探る

12年に大学発ベンチャー企業を立ち上げた。一般企業では、入手しづらいグラフェン素材をサンプル販売。性能を知ってもらい、工業材料としての可能性を探ってもらうためだ。「大学ならではの知見、技術を社会に活かしたい。いつか世の中を喜ばせる、人の役に立つ成果につながれば」と夢を抱く。

未知の分野に挑む研究は、時として思い通りに進まないこともある。だが、「行き詰まった時こそ、胸が高鳴る」と言い切る。想像もできなかった現象は、新たな発見につながっているからだ。

幼いころ味わった、あの「わくわく」を求めて、貪欲な研究姿勢は崩さない。

異分野融合先端研究コア・准教授

仁科 勇太

グローバル人材育成 特別コース



学生たちが将来グローバル社会で活躍できるように、語学教育や教養教育、専門教育において、学習を全面的にサポートするコース。コースの授業科目は、自分の学部に所属したまま履修できる。コースで求められる科目をすべて修めれば、修了証書が与えられる。留学先は岡山大学との協定校であるため、岡山大学に学費を払うだけでよく、留学先の大学に学費を納める必要はない。

岡山大学 GLOBAL HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT



▲日本文化理解 能体験

最初は苦労の連続だったという。普段は内気な性格だが、「自分から話さない」とも解決できない」と一念発起。徐々に積極的にコミュニケーションをとるようになっていった。「留学したおかげで、度胸がついた。はじめは仲間の力を借



▲ヨーク大外観

「『グローバル』海外に行くこと』だとは思わない。日本にいながら、世界中の人を幸せにできる人になりたい。」その確かな「答え」を見つけるため、これからは仲間と切磋琢磨していく考えだ。

仲間との交流が一番の刺激

「人とは違う大学生活を送りたい」。そんな漠然とした思いから、澤晃太郎さん（工学部機械システム系学科）は、当時新設されたばかりのグローバル人材育成特別コースを履修した。英語は決して得意科目ではなかったが、「コミュニケーションツールとして、将来役立ちそう」という考えもあったからだ。

同コースは国際社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成しようとして、昨年度からスタート。英語力養成、海外研修・留学などのプログラムがある。全学部生が履修でき、1期生は澤さんを含む51人がいる。



▲東芝サマーインターンシップにて

学科の学生が在籍する同コース。「国際連合の職員になりたい」「海外で学んだことを活かしたい」など、高い志を持つ学生が多いという。「夢や希望にあふれ、互いの成長を心から尊重できる仲間との交流が一番の刺激。学部の活動だけでは決して得られない貴重な経験ができて」と、目を輝かせる。

度胸がついたイギリス留学

能鑑賞や地場企業の見学といった勉強もあり、海外に目を向けるだけでなく、自国の歴史、文化へ理解を深めることも重視されている。文理を問わず、さまざまな学部、

昨夏、イギリスのヨーク大学へ1カ月間、語学留学した。澤さんにとって、海外へ行くのも初めて経験。発音の違いから言葉が通じなかったり、相手の話すスピードが速すぎて理解できなかったりと、

「『グローバル』海外に行くこと』だとは思わない。日本にいながら、世界中の人を幸せにできる人になりたい。」その確かな「答え」を見つけるため、これからは仲間と切磋琢磨していく考えだ。

澤 晃太郎

グローバル人材育成特別コース（工学部機械システム系学科2年）

SAWA KOHTARO



研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。



理念実践できる人材育成 岡山大学が取り組むESD



▲ESDを体験的に学ぶ教育学部の講義

今秋、岡山市で「ESD（持続可能な開発のための教育）に関するユネスコ世界会議」が開かれ、話題になった。ESDとは、環境、貧困など、地球規模のさまざまな問題を解決する人材を育成する取り組み。岡山大学では、ESD関連科目を開講するなど、理念を実践できる学生の育成に努めている。

教育学部の講義「ESDの理論と実践」では、体験的にESDを理解する学習を行っている。本年度は同学部の2、3年生6人が履修。地産地消を促進するため、地元素材を使ったばらばらのレシピ集を作成したり、来年1月に開かれるESDの地域イベントの企画・運営を行ったりしている。

履修する2年山崎栄雄さんは「ESDの理論を実践的に取り組むことで、より理解が深まった」と話す。



▲プレゼンテーションを行った「ESD学外自習」

環境理工学部では、2009年度から「ESD学外自習」を開講。岡山市ESD世界会議推進局の原明子副主査がコーディネーターを務める。

本年度は同学部など2、4年生6人が履修した。地域課題を調査して、解決するための企画を考案。7月に岡山市のイベントでプレゼンテーションした。ビニール製にすることで、紙の無駄をなくす「エコ薬袋」や、大学生のいらなくなった本をリサイクルする「岡大古本市」など、斬新なアイデアが発表された。

原副主査は「地域に飛び出して、さまざまな人とかわることで、多様性を身につけてもらえれば」と話していた。

交通体系を考える 岡山市とシンポジウム

岡山大学と岡山市は11月5日、岡山の交通体系を考えるシンポジウム「地方都市の創生を目指す 都市交通システムを考える」を本学津島キャンパスで開催した。

行政、経済団体、NPOの関係者ら約150人が参加。国土交通省の徳山日出男技監（岡山市出身）、同市の大森雅夫市長が基調講演を行った。徳山技監は、LRT（次世代型路面電車システム）を導入した富山市の中心市街地活性化策などを紹介しながら、「まちづくりは、地方の創意工夫にかかっている。岡山にもぜひ『成功例』となってもらいたい」と話した。大森市長は本年度、本学と共同研究をする超小型電気自動車（EV）の実証実験についても触れ、「雨天時や荷物が多い時など、徒歩、自転車では負担が大きい場面での力を発揮する」と考えている。二ツちな部分を超小型



▲超小型EVの試乗会

EVが補うことで、全体の交通体系が整備される」と語った。筑波大学大学院の石田東生教授を進行役に、東京大学大学院の鎌田実教授、熊本大学大学院溝上章志教授ら7人によるパネルディスカッションもあった。

工学部棟前では、超小型EVの試乗会を実施。学生、市民らが乗り心地を体感した。

岡山大学資源植物科学研究所は10月2日、創立100周年を記念して、倉敷市芸文館で記念式典を開催した。

森田潔学長、本学教職員のほか、地元の関係者や研究者約260人が出席。山本洋子研究所長は、「今後も国内外の人々が活発に交流する研究拠点として機能し、若手研究者を育てていきたい」とあいさつした。創設者大原孫三郎氏の孫にあたる謙一郎氏（大原奨農会理事長）の講演もあった。

同日夕方には、倉敷アイビースクエアで記念祝賀会を開催。本学が開発した大麦「はるな二条HKI」を使用したダクワーズ（焼き菓子）や記念ビールが出席者に振る舞われた。

研究所は、1914年に孫三郎氏が財団法人大原奨農会農業研究所として創設。本学に移管後、日本における植物科学の拠点研究所として活動を続けている。



▲記念誌、大麦ダクワーズ、記念ビール

▲あいさつする山本所長



▲芸文館ホールで開催された記念式典

1 TOPICS Okayama University

資源植物科学研究所100周年 記念式典開催

岡山大学地域総合研究センターは10月20日、西川緑道公園沿いのオフィスビル2階（伊達ビル、岡山市北区田町二丁目）に「西川アゴラ」を開所した。

この日開かれた開所式には、市民、学生、行政関係者ら約40人が出席。横山忠弘岡山市副市長と荒木勝理事（社会貢献・国際担当）が看板を取り付けた。同所の勉強会「西川カフェ」の体験もあり、将来のまちなかのにぎわいについて意見が交わされた。

「西川アゴラ」は、住民や学生が気軽に立ち寄ることができる学びの場として設置。

▲握手を交わす横山副市長（右）と荒木理事



▲西川緑道公園沿いに開所した「西川アゴラ」



▲副市長や市民を交えた「西川カフェ」

まちづくりの拠点に「西川アゴラ」開所

今後、西川緑道公園界隈を中心とするまちづくりに携わるNPOや地域住民、行政、大学関係者らが集い、まちのにぎわい創出や課題解決について話し合ったり、勉強会を開催したりする。

また、他大学や行政などの視察の受け入れ、イベントのちらし配布、ニュースレターの発行などを通してまちの魅力発信。実践型社会連携教育の場として、まちなかの交通量調査や通行人への聞き取り調査の拠点として利用する。将来的には、観光、公共交通、子育て、環境保全、健康、経済活性化といった幅広い観点からまちづくり施策を提言していく市民組織づくりを目指す。



▲学生による通行人への聞き取り調査

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

9 September

1日 大学院医歯薬学総合研究科の公文裕巳教授が、地域社会の発展に貢献した個人を顕彰する「三木記念賞」を受賞



5日 文部科学省「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の橋渡し研究支援拠点に採択

9日 岡山県高等学校長協会との懇談会を開催

13日 全学同窓会「Alumni」の愛媛県支部を設立。7月に設立された東京支部に続いて、「二カ所目の支部」

19日 「岡山大学フエ工大学院特別コース」第8期生8人の入学式をベトナム・フエ大学で実施

24日 岡山大学病院で「母親の肺の一部を分割して男児(2歳9カ月)に移植する世界初の手術に成功」



25日 定例記者発表を開催

25日 教育開発センターが大学教職員等を対象にした研修会「桃太郎フォーラムXIII」を開催

26日 文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援対象に選定

30日 平成26年度秋季岡山大学学位記授与式を挙げる

10 October

1日 次世代人材育成センターを設置

1日 高等教育開発推進機構を設置

2日 資源植物科学研究所が創立100周年記念式典を開催

10

3日 岡山市の大森雅夫市長が経済学部特殊講義「現代地方自治経営論」で講義

6日 教育学部附属小学校の新体育館が完成し、竣工式を開催

6日 大学院予備教育特別コース短期留学受入プログラムの第1期開講式を開催

8日 平成26年度岡山大学・大学院秋季入学式を挙げる



15日 地域総合研究センターは、留学生と学生の力を岡山のまちづくりや観光振興に活用することを目的として「留学生と日本人学生11人をおかやま学生まちづくり」に任命

17日 カフェテラス「Junko Ukiyake Terrace」(通称「J Terrace」)が津島キャンパス正門西側に完成し、オープニングセレモニーを開催

18日 ホームカミングデイ2014を開催

18日 グローバル・パートナーズが第1回中国東北三省日本語スピーチコンテストを中国・長春で開催

20日 国際交流イベント「エラスムスデイ」を開催

20日 地域総合研究センターが西川緑道公園沿いのオフィスビル2階に「西川アトリ」を開設

26日 教育学部附属幼稚園が創立130周年記念式典を開催



28日 定例記者発表を開催

29日 岡山大学学会賞等受賞者表彰授与式を行い、学生33人を表彰

30日 工学部創造工学センター「エドドリームコンテスト」(DMG 森精機株主催)アカデミック部門で銀賞を受賞



11 November

11日 附属図書館は岡山シティミュージアムと共同で「池田家文庫絵図展 岡山藩と明治維新を同じうに」を開催



11日 大学祭を津島地区(2日)と鹿田地区で開催



3日 医学部6年の西村義人さんが第44回世界パワリフティング選手権大会66kg級で優勝

5日 本学と岡山市はシンポジウム「地方都市の創生を目指す都市交通システムを考える」を開催

5日 山中文部科学事務次官が本学を視察

7日 研究推進産官連携機構と東京サテライトオフィスは東京都中央区文化・生涯学習「中央区民カレッジまなびのコース」で連携講座「科学技術の最前線」を開催

13日 本学とサウジアラビアのキング・ファイサル大学は、「先端科学としての農業と環境学」アラブ産油国と協働して考える「食と環境」と題した初のワークショップを開催

14日 中国・東北師範大学赴日日本国留学生予備学校で、長春事務所が国立六大学共用開始セレモニーを開催

14日 知恵の見本市2014を開催

21日 定例記者発表を開催

22日 岡山大学農学部収穫祭・農学部フェアを開催

24日 「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業キックオフシンポジウムを開催

12 December

3日 ウーマン・テニシア・トラック教員研究発表会を開催

13日 「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」キックオフシンポジウムを開催

研究・臨床成果

■大学院自然科学研究科の吉井大志准教授は、ドイツのヴュルツブルク大学とスウェーデンのストックホルム大学との国際共同研究で、キイロシヨウジョウバエの概日時計の出力物質を新たに発見した。「Journal of Neuroscience」に掲載。(9月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の河田哲宏大学院生、松尾俊彦准教授、大学院自然科学研究科の内田哲也准教授の「医工連携研究グループ」は、生体組織のガラス転移温度を測定することに世界で初めて成功した。「Springer Plus」に掲載。(9月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の森田学教授と保健管理センターの岩崎良章准教授の研究グループは、早食いの習慣を持つ大学生が肥満になりやすいことを縦断研究において、世界で初めて突き止めた。「Obesity」に掲載。(9月・定例発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の大島正充助教らの研究グループは、天然歯と同等の歯周組織を有するバイオハイブリッドインプラントを開発し、歯科矯正学的な移動や神経伝達といった歯の生理機能を再現しうる「次世代型の口腔インプラント治療」の実現可能性を実証した。「Scientific Reports」に掲載。(9月・定例発表)

■地球物質科学研究センターの米田明准教授、国立科学博物館、中国地質大学武漢校との共同研究グループは、沈み込み帯スラブの岩石であるエクロジヤイトの熱伝導率を、大迫セルを用いて決定。スラブの中心部付近の温度が従来のモデルよりも50℃ほど低くなることを明らかにした。「Journal of Geophysical Research」に掲載。(9月・定例発表)

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授、岡山理科大学と塩水港精糖株式会社の共同研究グループは、糖を付加した水に溶けやすいがん治療薬パクリタキセルを、脂質二重膜リポソームへ効率良く封入する技術を世界で初めて開発。「PLOS ONE」に掲載。(10月・臨時発表)

■資源植物科学研究科の力石和英助教、前川雅彦教授は、種子の成熟をコントロールする遺伝子をコムギで特定。種子の品質低下をもたらす芽発芽を防止する種子休眠性との関係を明らかにした。「PLOS ONE」に掲載。(10月・臨時発表)

■資源植物科学研究科の馬建鋒教授らの研究グループは、イネの輸送体タンパク質OsABC1が、コムギ粒へのヒ素の蓄積を抑制することを世界で初めて突き止めた。米科学アカデミー紀要に掲載。(10月・臨時発表)

■医歯薬学総合研究科の表弘志准教授、九州大学、味の素株式会社らの研究グループは、VNU1遺伝子破壊マウスでは、APPの分泌がなくなる同時に血糖値が低下し、インスリンに対する感受性が増加することを発見。APPが血糖値の調節に関わっていることを確認した。「Scientific Reports」に掲載。(10月・臨時発表)

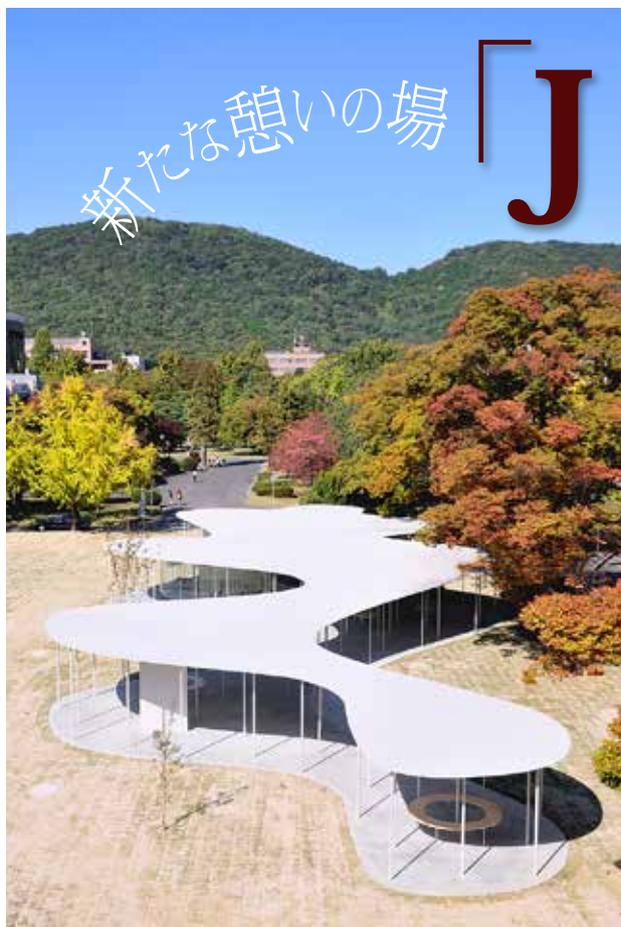
■大学院医歯薬学総合研究科の鶴殿平一郎教授、一柳朋子助教らの研究グループは、HP90aが哺乳類の生殖細胞におけるレトロランスポゾン(の再活性化抑制機構)に関与し、ゲノムの恒常性維持にも重要であることを遺伝的に初めて証明した。「Nucleic Acid Research」に掲載。(10月・定例発表)

■岡山大学病院の喜多村真治講師、横野博史病院長らの研究グループは、成体腎臓から取り出した幹細胞を用いて、試験管内での腎臓構造の最小構成単位であるネフロンを再現に世界で初めて成功した。「STEM CELLS」に掲載。(11月・定例発表)

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授、菅倫寛助教、秋田総理助教、理化学研究所らの研究グループは、X線自由電子レーザー施設SACLAを用いて、光合成による水分解反応を触媒する光化学系II複合体の構造を1.95Å分解能で正確に突き止めた。「Nature」に掲載。(11月・臨時発表)

「Jテラス」誕生

新たな憩いの場



もくもくとした雲のような形の屋根、開放的なガラス張りの空間…。岡山大学津島キャンパスに、カフェテラス「Junko Fukutake Terrace」（通称：Jテラス）が誕生しました。学生や教員、地域住民らの新たな憩いの場として、にぎわっています。

Z」（岡山市南区）を展開する株式会社酒井プラニング（同）が運営。フランス料理風の総菜を「三段重」に詰めたランチや、ガトーショコラ、チーズケーキといったスイーツなど、素材にこだわったメニューが充実しています。

本学の卒業生でもある同社代表取締役の酒井政徳さんは「さまざまな出会いや繋がりが生まれる空間にしたい。卒業生の一人として、大学に貢献できれば」と話していました。



岡山大学は10月18日、卒業生、地域住民らを招き、大学に親しんでもらうイベント「ホームカミングデー2014」を開催しました。過去最高の約1400人が来場し、交流を深めました。

メイン会場の創立五十周年記念館付近では、応援団総部が力強い演舞と学歌で来場者を歓迎。在学生、OBらによる模擬店では、新鮮な農産物や、焼き菓子、地酒などの販売があり、多くの人でにぎわいました。

学生企画として、情報展示室（国登録有形文化財）を活用したカフェ「思い出茶屋」がオープン。在学生、同窓生らがコーヒーなどを飲みながら、楽しく語っていました。同記念館では、教育講座の学生・同窓生の作品が並ぶ美術展、音楽サークルが出演する「ミュージックフェスティバル」もあり、盛り上がりました。



卒業生らと交流深める ホームカミングデー開催